

メガフロートの津波等リスク低減対策工事の進捗状況について

2019年4月25日

TEPCO

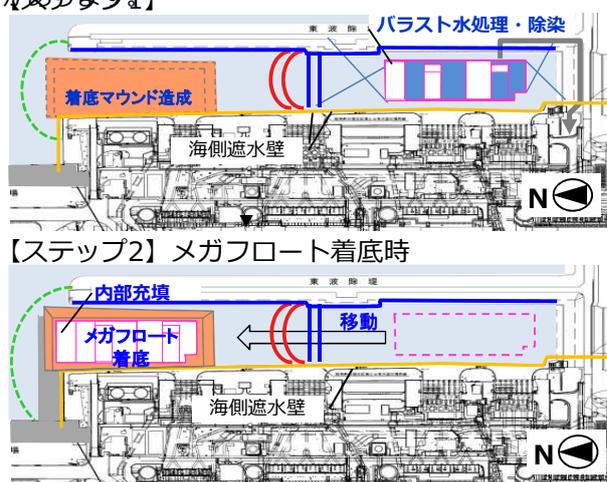
東京電力ホールディングス株式会社

1. メガフロート工事の進捗状況について

TEPCO

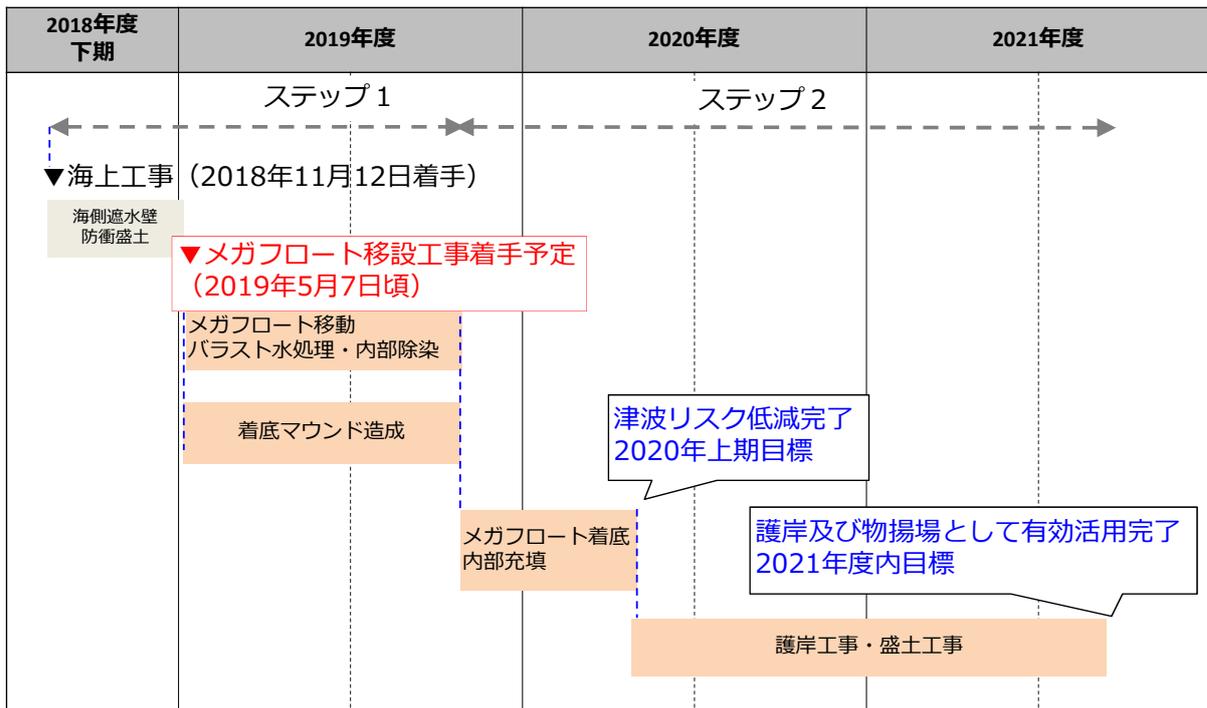
- 1～4号機取水路開渠内では、メガフロートを移動するにあたり海側遮水壁を保護するための防衝盛土設置工事を2018年11月12日から着手し、2019年4月24日に完了しました。引き続き、メガフロート移設のステップ1として「メガフロート移動」、「バラスト水処理・内部除染」および、「着底マウンド造成作業」に着手してまいります。
- メガフロートを移設・着底（メガフロートが着底マウンドに着底し、内部にモルタル充填完了）し、津波リスクが低減される（ステップ2）のは、2020年度上期頃を計画しております。なお、護岸および物揚場として有効活用される時期は、2021年度内を目標としております。

【工期および配置は天候や施工状況により変更となる場合があります】



2. 全体概略工程

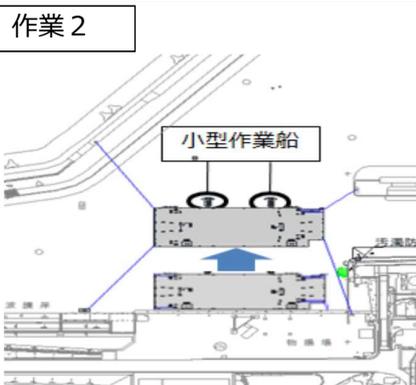
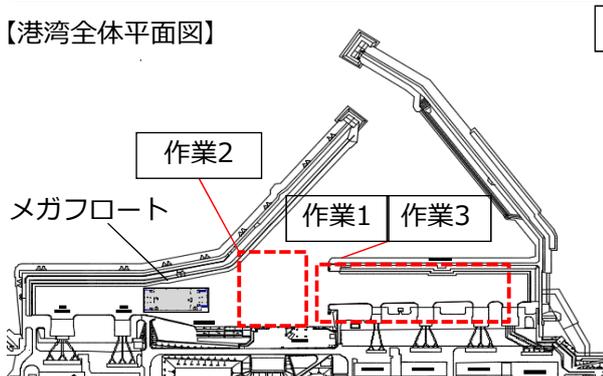
- 2020年度上期を目途に津波リスク低減完了を目標として対策工事を実施していきます。



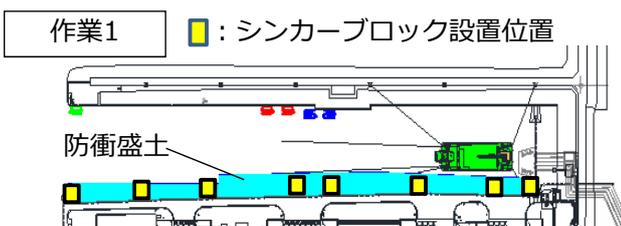
※予定工程であり、気象海象状況等により工程が変更する可能性もあります。

3. 工事フェーズ図（5月上旬～中旬）

【港湾全体平面図】



小型作業船と移動用ワイヤーを使用しメガフロートを開渠内への入口まで移動させます。



シルトフェンス等を一時的に取り外します。起重機船を用いてメガフロートの係留等に用いる約30トンのシンカーブロック※を、防衛盛土上へ設置します。
 ※メガフロートを移動、係留させる際の移動用のワイヤーや係留ロープの固定用ブロック。



開渠内南側へ船上のウインチとシンカーブロックを移動用ワイヤーで繋ぎ、引っ張りながら移動させ、最終的には開渠南側に係留します。